

令和4年3月3日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

都・道・府・ 県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
三木市立別所小学校	三木市教育委員会	国・ 公 ・私

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1・2学年の「生活科」6時間を削減して、「外国語活動」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

三木市においては、次代を担う子どもたちに、ふるさとの歴史や文化、とりわけ伝統産業である三木金物の素晴らしさを伝え、我がまち三木市を愛する豊かな心を育むとともに、ものづくりを通じて自ら考え、生きる力を育成してきた。これまで取り組んできた「ふるさと教育」や「心の教育」を基盤として、今後のグローバル化に対応できる子どもたちを育むため、小学校低学年から「聞く」「話す」体験を中心とした「外国語活動」に取り組む。

(3) 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

ア 実施体制

- ・1・2年生担任とALTがT・Tを組み、T1を各学級担任、T2をALTが担当して授業を行った。
- ・児童に英語を話させる場面では、ネイティブな発音に触れさせるためにALTが主になって正しい発音を聞かせながら、児童に英語を発するようにさせた。
- ・ゲームや歌を交えたり、ALTの国の文化や風習についての話を聞いたりしながら、楽しみながら英語に親しむことが出来るようにした。

イ 指導計画及び授業の内容

- ・各学期に2時間ずつ、合計6時間の計画で進めた。1・2年生の学習内容が重ならないよう、カリキュラムを組み、指導が積みあがるようにした。
- ・1年生では、歌やゲームを交えて「あいさつ」「自己紹介」「10までの数」「色」「自分の体」「動物」「動き」についての言葉に慣れ親しんだ。
- ・2年生では、1年生の学習の上に、他国の文化（ハロウィン・クリスマス）についてALTの話を聞くことで様々な国の様子に興味を持たせ、「20までの数」「果物」「形」「年齢」の言葉へと語彙を広げていった。

(4) 情報提供の状況

- ・HP や学級通信で1・2年生の外国語活動の様子を紹介した。その際、学習のねらい、活動状況（写真）、授業後の振り返りカード等を取り入れることで、保護者の外国語活動への理解を進めた。
- ・外国語活動での成果物（ワークシート・クリスマスカードなど）を教室掲示して、保護者来校時に見ることができるようにした。

(5) 特例の適用開始日及び、取組の期間

- ・特例の適用開始日 : 平成28年4月1日
- ・変更した特例の適用開始日 : 令和2年4月1日
- ・取組の終期 : 今後も継続した取組を予定

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
 - ・一部、計画通り実施できていない
 - ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
 - ・実施していない

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

- ・他国の言葉や文化に触れることで、児童は視野を広めることができた。そして、自他ともに認め合う風土が、本校のめざす「人間性豊かな子」につながった。

(2) 実施の効果

- ・ネイティブ英語を耳にすることで、児童の発する英語が正しい発音になってきた。
- ・英語を聞いても動じることはほとんどなく、むしろ理解しようと積極的に聞いたり話したりする姿勢が育ってきた。
- ・他者理解が進みつつある。

4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・教師自身がALTと積極的に交流することで、児童に異文化のおもしろさ・話せる英語を伝えることができる。教師の積極的な姿勢を耕す必要がある。
- ・低学年に合う教材・教具の開発を進め、本格的に始まる3年生の外国語活動に効果的につなげる工夫が必要である。